

子どものいじめによる自殺を0に ～共感力を育み皆が自由に生きられる八王子へ～

Zero suicide due to bullying ～ To Hachioji, where everyone can live freely by fostering empathy ~

グループ名：Mind

山崎 久恵, 大前 遥, 頭巾 来梨, 正木 華子

指導教員 青野 健作

創価女子短期大学 国際ビジネス学科 青野ゼミナール

キーワード：教育, 人間文化, 社会, 子ども支援

【はじめに】

学校は教育の場である。教育の場である学校には、“いじめは絶対にいけない”と教える使命があると考えられる。

私たちは近年いじめが増加している⁽¹⁾ことを課題として発見。

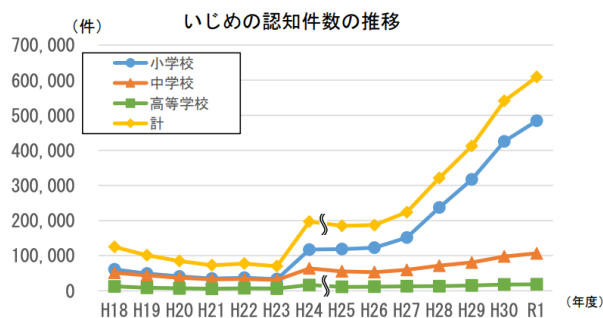


図 1 文部科学省 令和元年度
いじめの認知件数の推移

いじめについて調べる中、八王子市で実際に起こった自殺事件⁽²⁾について知った。二度と悲惨な事件を起こさないために、小・中学生をつい最近まで経験していた大学生が提案することで、より具体的な提案ができるのではないかと考え提案する。

私たちの提案する企画のビジョンは、“子どものいじめによる自殺を0に”である。

このビジョンを達成させるには、相手の気持ちを思いやる共感力が必要であると考えられる。私たちはこの共感力を育める企画を提案する。

【提案】

この企画のターゲットは八王子市内の小学生である。小学生の時に相手の気持ちを思いやる共感力を育むことで、今後先も正しい道を歩めると考える。

今回私たちは主に以下の3点を提案する。

- ① 対話を定期的に取り入れる
- ② 大学生によるいじめを起こさないための講習会&対話会
- ③ 縦割り班と委員会の導入

① 対話を定期的に取り入れる

対話は自分の意見をわかりやすく相手に伝える能力と、相手の話を聞く能力をつけられると考える。クラス内の生徒全員と一対一対話や、学年内でシャッフルし数人での対話などを提案する。

② 大学生によるいじめを起こさないための講習会&対話会

各小学校でいじめを防止する講習会等とともに、同じ学生である大学生が実際に小学校を訪れ、講習会を実施する。そしてその後数グループに分かれ大学生とともに対話会を実施する。

③ 縦割り班と委員会の導入

学年の垣根を超えて交流できるよう、学年間わず各組内で3人1組のグループ(=縦割り班)を作成。朝の時間を使用し対話会や、レクリエーションを実施する。この企画・運営は、縦割り委員会が実施。縦割り班活動を通して、年齢の異なるメンバーと共感力を育むことを提案する。

【おわりに】

この企画は各小学校に合わせて応用可能であり、持続可能である。さらに継続することでより共感力が生まれ、生徒の居場所を作ることができると思う。

“いじめた側が100%悪い”、“どんな理由があってもいじめてよい理由にはならない”ことを、生徒はもちろん、大人にも今一度訴えていく必要がある。この企画には、「自分がされて嫌なことはしない」という考えが根底にある。この考えを強く伝えながら、八王子市から子どものいじめを0にしていきたい。

八王子市のブランドメッセージである「あなたのみちを、あるけるまち。」⁽³⁾



図 2 八王子市 ブランドイメージロゴ

にあるように、皆自分らしく生きる権利を持っている。だからこそ、助けての声がすぐ聞こえるような学校にするため、一人ひとりの居場所を作るため、私たちはこの企画を提案する。

【参考文献】

- (1) 文部科学省 令和元年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要

https://www.mext.go.jp/kaigisiryoy/content/20201204-mxt_syoto02-000011235_2-1.pdf

2021年10月参考

- (2) 八王子市市長宛 八王子市立中学校におけるいじめの重大事態に係る再調査報告書

https://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisei/001/001/018/001/p026083_d/fil/sihoukoku.pdf

2021年10月参考

- (3) 八王子市 シティプロモーション

<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisei/003/002/index.html>

2021年10月参考